携ってこられた方の識見がひかつており、豊富な図解とあわせて、一々教示されるところが多かつた。また随処に民謡、文芸が入つているのも、筆者ならではの博引で、楽しみながら読ませて頂いた。

簡単な紹介では、この労作に対して申訳ないのであるが、藍についての基本的な文献をえた喜びを伝えて、一読をおすすめする。いつもながら三木産業が単に一会社の営利を超えて、「藍」産業全体についてのすぐれた書物を刊行されることに対して敬意を表するとともに、執筆に当られた後藤捷一氏が老来ますます御壮健にて、後進を稗益されんことを期待してやまない。（A5判本文二九六頁　付録統計一八八頁　三木産業株式会社刊）

（脇田　修）

沼津市誌編纂委員会編
沼津市誌　上巻

広重の「東海道五十三次続絵」に黄昏の道をいそぐ旅人の姿とともにえがかれた沼津宿は、今日岳南の工業地帯の中心として将来を期待される近代的都市に発展しつつある。その沼津市が、昭和三十年以来、この地の出身者である故後藤守一博士（明大教授）と静大教授内藤晃氏を監修者に迎え、地元の研究者によつて、六年余の才月をかけて全三巻の市誌が完成された。ここに紹介する同書上巻は、「自然環境編」（第一章　地形・地質、第二章　生物）と「歴史篇」のうちの「総説」と「各論篇」のうち「政治篇」が収められているが、本巻の大部分は、歴史的記述が中心であつて、いわば〝沼津市史〟ともいうべきものに相当する。以下、歴史的記述を中心に紹介を試みたい。

まず「総説」は、本書の中心的部分をなす「各論篇の個別的研究への導入」という役割をもたせたものであつて、所謂沼津を中心とする地域社会の歴史的発展をあとづけることを直接的目標にしたものではないが、実質的には概説の役割を果すものである。そこでは無土器文化から、先史・古代・中世・近世・及び近代現代に至る地域的発展を六章にわたつて論述している。「各論篇」第一篇「政治」では、第一章「古代国郡の変遷と沼津地方」以下、「岡野馬牧と大岡庄」「鎌倉幕府の成立と沼津」「封建制度の発展」「戦国動乱と三枚橋城」「徳川幕府の成立と代官支配」「水野氏と沼津藩」「幕末維新期の沼津」「近代の沼津―町と市―」「市法と警察」等合せて十章の個別的研究が収められている。前近代社会について、古代以来の史料的にも比較的めぐまれ、且重要な時点の諸問題を個別的に追求するという方法は、一般に史料的制約の多い地方史の記述のあり方としてはユニークなものといえるであろう。特に戦国期の後北条・今川・武田氏等の沼津を中心とする駿河・伊豆の支配関係の究明は、学界にも多大の貢献をなすものであろう。又近世の沼津藩の研究も、史料的制約を受けながら、新史料の発掘につとめられ、旧市誌の段階を大きく発展せしめていることも特筆すべきであろう。

近代以後の部分については、個別研究に分散化され、総説の部分があまりに簡略化されていることは、おしまれる。（近代については、中巻以下の教育・社会・産業・経済等の各篇参照）たしかに、今日の段階では「近代に属する一つの都市の発展を（中略）綜合的に理解すること」は「至難の業」であるにしても、それを敢て試みることは決して「市民

の意志と期待を裏切る」ものではなく、むしろ今後の発展方向への問題提起として、市民の期待するところではなかったろうか。又総説と各論との関係でいえば、総説を各論への導入という観点で執筆されるのではなく、沼津の将来を展望する意味でその発展のあとをたどるという観点が要求されるのではないかと思う。かかる立場に立つて叙述することの困難さを十分承知の上でかくいうのは、所謂地方史のあり方が、市民とのつながりの上で深刻に問題とされなければならないと思うからである。

以上望蜀の言をのべさせていただいたが、かかることによって本書の価値はいささかもそこなわれるものではない。本誌の編纂にたずさわれた諸氏に深い敬意を表するとともに、沼津市の発展を祈つて紹介の筆をおきたい。（A5判六四〇頁　昭和三十六年三月　沼津市発行〈全三巻〉）

（原　秀三郎）

学界消息

史学研究会関係

昭和三六年度史学研究会大会

一一月一日（水）、一一月二日（木）

第一日見学会は、予定通り天理図書館・同参考館を見学し、帰途奈良国立博物館で開催中の正倉院展を追加見学した。特に天理参考館は、講師梅原末治氏の懇切な解説のもとに、見学した。

第二日総会及び大会は、午後一時より京都大学楽友会館にて開催した。総会は、織田理事長代理より、会計・会務の報告があり、さらに、昨年度総会の決議に基づく財団法人改組の件の経過報告が行なわれた。なお財団法人改組の件は、昭和三五年一二月二三日付で設立許可申請を文部省に提出し、現在審議中である。公開講演は、早稲田大学教授松田寿男氏、大阪市立大学教授渡辺久雄氏により、次の演題で行なわれた。

古代日本の水銀文化　松田　寿男
——中国水銀鉱業史研究序説——

河系の文化　渡辺　久雄
——わが国古代における土地開拓を中心として——

史学研究会一二月例会

十二月二日（土）　於京大陳列館第二教室

和泉市史資料調査報告　三浦　圭一

バリ島の農村（スライド使用）　石川　栄吉

国史関係

読史会秋季大会

一一月三日（祝）　於京大文学部第一教室

郡司子弟考　薗田　香融

別の実体に関する試論　上田　正昭

近世後期の地主経済　宮下美智子

幕藩体制史研究の課題　藤野　保

京都の蘭学について　山本　四郎

写楽と北斎　三品　彰英

国粋保存主義についての一考察　宮本　又久

仏公使サンクイッチ文書について　彭　沢周

式目註釈書について　池内　義資

日本文化における伝授の一考察　藤　直幹

越前地方の古文書　小葉田　淳